

|   |   |
|---|---|
| <p>15日<br/>(日)<br/><br/>ゼカリヤ<br/>1章</p> | <p>「再び、呼びかけていて。万軍の主はこう言われる。わたしの町々は再び恵みで溢れ、主はシオンを再び慰め、エルサレムを再び選ばれる」(17節)。主の計画は、主に心を向けないイスラエルへの愛。怒りの激しさは、憐れみの深さ。イスラエルと共に歩み続けた主の約束を共に受けていきたいと願います。</p> |
| <p>16日<br/>(月)<br/><br/>ゼカリヤ<br/>2章</p> | <p>「娘シオンよ、声をあげて喜べ。わたしは来て、あなたのただ中に住まう、と主は言われる」(14節)。主の裁きは、イスラエルの嗣業四方すべてにおよぶ。測り縄で丁寧に、イスラエルの姿を図る。良いことも、悪いことも。今の自分の心を見つめて、受け入れ、主のみ業を心から喜ぶことができる。</p>    |
| <p>17日<br/>(火)<br/><br/>ゼカリヤ<br/>3章</p> | <p>「万軍の主はこう言われる。もしあなたがわたしの道を歩み、わたしの務めを守るなら、あなたはわたしの家を収め、わたしの庭を守る者となる」(7節)。大祭司ヨシュアでも、サタンと主の前で裁きの時を待つ。主の務めを守る道のうちに留まる時、主は汚れた衣を脱がせ、罪を取り去って下さる。</p>     |
| <p>18日<br/>(水)<br/><br/>ゼカリヤ<br/>4章</p> | <p>「誰が初めのささやかな日をさげすむのか。ゼルバベルの手にある選び抜かれた石を見て、喜び祝うべきである」(10節)。7つのともし火皿をもって、主は、地上をくまなく、目を注いでくださる。主から遣わされることは、主の働きに参与できる喜びの出来事と信じて、主の協働者として生きていきたい</p>  |

|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <p>19日<br/>(木)</p> <p>ゼカリヤ<br/>5章</p> | <p>「わたしがこれを送り出す、と万軍の主は言われる。それは盗人の家に。わが名によって偽りの誓いをする者の家に入り、その家の中に宿り、梁も石ももろともに滅ぼし尽くす」(4節)。日間違って組まれたものを主が、梁も石も取り払われる。主の言葉はこの地のすべてに主の義さを示してくださる。</p>           |
| <p>20日<br/>(金)</p> <p>ゼカリヤ<br/>6章</p> | <p>「彼こそ主の神殿を立て直し、威光をまとい、王座に座して治める。その王座の傍らに祭司がいて、平和の計画が二人の間に生ずる」(13節)。主が再び起こされる神殿建築の計画は、まだ見えなくても、足元に萌えいでる「若枝」という名の人から、始まる。「若枝」の平和の計画に招かれている時、なにができるだろうか</p> |
| <p>21日<br/>(土)</p> <p>ゼカリヤ<br/>7章</p> | <p>「あなたたちは食べるにしても飲むにしても、ただあなたたち自身のために食べたり飲んだりしてきただけではないか」(6節)。は主のためにささげる真の礼拝をわたしはささげることができているだろうか。正義と真理に基づいて、隣人と出会っているだろうか。種の声にいつも耳を傾けるものでありつづけたい。</p>     |
| <p>22日<br/>(日)</p> <p>ゼカリヤ<br/>8章</p> | <p>「互いに真実を語り合え。城門では真実と正義に基づき、平和をもたらず裁きをせよ」(16節)。ゼカリヤは神の真実と正義がエルサレムの真ん中に置かれるビジョンを語る。そのとき「老爺、老婆が広場に座し、わらべ、おとめの笑いであふれる」と。わたしは日本の将来をどのように思い描き、祈っているだろうか。</p>   |